

第4回 KPU シンポジウム報告書

2013年5月1日（水）、京都薬科大学・躬行館 T31 講義室において第4回 KPU シンポジウムを開催いたしました。特別講演として東京大学医学部附属病院・薬剤部の大野能之先生ならびに武田薬品工業株式会社・癌創薬ユニットの岡庭正格先生をお招きして、それぞれ「医療現場におけるファーマシスト・サイエンティストの役割～僕が薬剤師として研究をしている理由～」および「癌治療薬の創製を目指す企業研究～経口RAF/VEGFR2 キナーゼ阻害薬の探索合成研究～」という演題でご講演頂きました。また、一般講演として鳥羽裕恵助教、濱 進講師および高田和幸助教の3名の学内教員による最新の研究成果について発表して頂きました。合計371名の多くの学生や教員の方々にご参加くださいました。また、シンポジウム終了後に開催した交流会では、多くの学部学生が特別講演演者の大野先生や岡庭先生、また一般講演演者の先生方を囲んで質問をしており、18時30分過ぎまで活発な討論が続きました。今回も座長先生方をはじめ多くの先生方からの多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

KPU シンポジウム実行委員会一同

1. シンポジウム概要

日時：2013年5月1日（水） 13:30～17:20

場所：京都薬科大学躬学館 T31 講義室

開会の挨拶 乾 賢一 学長

特別講演（1）13時40分～14時30分 座長：西口 工司 教授

「医療現場におけるファーマシスト・サイエンティストの役割

～僕が薬剤師として研究をしている理由～

東京大学医学部附属病院・薬剤部

大野 能之 助教

特別講演（2）14時40分～15時30分 座長：赤路 健一 教授

「癌治療薬の創製を目指す企業研究

～経口 RAF/VEGFR2 キナーゼ阻害薬の探索合成研究～

武田薬品工業株式会社・医薬研究本部・癌創薬ユニット

岡庭 正格 主任研究員

一般講演（1）15時40分～16時10分 座長：芦原 英司 教授

「アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬テルミサルタンのPPAR γ 活性化作用を介した

慢性腎臓病治療薬としての有用性の検討」

鳥羽 裕恵 助教（臨床薬理学分野）

一般講演（2）16時10分～16時40分 座長：藤室 雅弘 教授

「がんの悪性を支配する微小環境に着目した新規がん診断・治療法の開発」

濱 進 講師（薬品物理化学分野）

一般講演（3）16時40分～17時10分 座長：大矢 進 教授

「ミクログリアの機能解析からアルツハイマー病の新規治療戦略の開発へ」

高田 和幸 助教（病態生理学分野）

閉会の挨拶 長澤 一樹 教授

茶話会 17時20分～18時40分

参加人数：371名

1～2年次生：75名、3～6年次生：231名、大学院博士課程学生：13名、その他：5名

